「国語」・「数学」・「英語」の力 と 学習の様子

～『R8全国学力・学習状況調査（第3学年4月実施）』の結果から～ 武生第六中学校

令和8年4月21日（火）・23日（木）に中学校3年生を対象に実施されました、「全国学力・学習状況調査」の結果と分析がまとまりましたのでお知らせします。今年度は、国語・数学・英語の調査が行われました。今回の結果をもとに、子どもたちの良い点はさらに伸ばし、課題については、その改善を図るとともに、生活指導の充実や学習状況の改善に役立てていきたいと思いますので、ご家庭でもご協力の程、よろしくお願いします。

◆国語について 〈◎良い傾向 ▲課題が見られたところ〉

学習指導要領の内容における結果から

◎「言葉の特徴や使い方に関する事項」「書くこと」「読むこと」の領域で、全国平均を上回っています。「話すこと・聞くこと」の領域では、正答率が全国平均および県平均を大きく上回っています。

▲「情報の使い方に関する事項」の領域で、正答率が全国平均を下回っています。

特に正答率の高かった問題

◎「書くこと」領域の問題では、表現の効果を考えて、気持ちがより伝わるように工夫して書くことができていました。物語文の学習において、表現の仕方などの特徴を見つけ、その工夫がどのような効果や魅力を生み出しているかを話し合う活動、およびそこで学んだことを生かしながら文章を書き、読み合う活動の積み重ねの効果が表れていると考えます。

◎「話すこと・書くこと」領域の問題では、互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために自分の考えをまとめることができていました。普段の授業において、自分の考えと比較しながら他者の発言を聞く活動や、聞き手を意識しながら自分の考えを述べる活動を積み重ねてきた成果が表れていると考えます。

課題となる問題

▲「情報の使い方に関する事項」の領域では、単語の類別、および語句の辞書的な意味を踏まえ、文脈上の意味を捉えることに課題が見られました。改善策として、文章中の語句を取り上げ、品詞や自立語・付属語などの分類の観点を確認する活動や、文章中の語句の働きや意味に着目し、辞書的な意味と前後の文脈を関連付けて考えるような活動を増やしていきます。

◆数学について 〈◎良い傾向 ▲課題が見られたところ〉

学習指導要領の内容における結果から

◎「数と式」の領域については、正答率がわずかに県平均を下回りましたが、「図形」、「関数」、「データの活用」の領域では、県平均を上回っています。

特に正答率の高かった問題

◎「関数」の領域の問題で、動画の録画時間とデータ量の関係を表したグラフの座標を読み取ったり、これらの関係が比例の関係であることを、表やグラフから導いたりして、データ量が 1000ＭＢになるときの動画の時間の求め方を説明することができました。他の領域においても、記述式の問題の平均正答率がすべて県平均より上回っています。どのように解を求めているか、根拠をもって説明したり、数学的用語を用いて説明し合う活動などを積極的に取り入れていることが成果となって表れています。

◎「データの活用」の領域の問題では、起こり得る場合を樹形図や表を利用するなどして整理し、条件にあう確率を求めることができています。また、箱ひげ図と四分位数の対応についてしっかり理解できています。確率を求めたり、箱ひげ図を読み取ったりする際に必要な知識が身についていると考えられます。

課題となる問題

▲「数と式」の領域について、最低気温と最高気温との差を求める問題の正答率が大きく下回りました。具体的な場面において、正の数・負の数を用いて変化や状況を表すことに課題がみられました。学習したことを、具体的な場面で活用できる力をつけていくよう改善していきます。

◆英語について 〈◎良い傾向　▲課題が見られたところ〉

学習指導要領の内容における結果から

◎「聞くこと」の領域については、正答率が県の平均をわずかに下回りました。また、「読むこと」「書くこと」の領域では、県平均と同じでした。

特に正答率の高かった問題

◎中学生になってからの思い出を１つ取り上げ、そこで体験したことと感想を書く問題では、日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができていました。普段の授業において、週末の出来事や学校行事の思い出についてペアやグループで英語で伝え合い、英作文を書くことを積み重ねてきたことの効果が表れています。

◎文章を読み、グラフの空所に入る学校行事を選択する問題がよくできていました。音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、実際のコミュニケーションにおいて活用する力が身についています。

◎職場体験についての発表を聞き、その後に示される３枚の絵を体験した順になるように選択する問題では、全国や県の正答率を大きく上回りました。日常的な話題について、話を聞き概要を捉えることができていました。目的・場面・状況を正確に捉え、それぞれの場面で使われる単語や文法の働きをよく理解できていると考えられます。

課題となる問題

▲「聞くこと」の領域では、住みやすいまちづくりについての発表を聞き、話し手が最も伝えたいことを捉えることに課題が見られました。また、「読み取り」の領域の問題では、物語を読み、物語全体を通した登場人物の気持ちの変化を読み取ることに課題があるようです。改善策として、日常的な話題について、短い文章を読み、話し手の気持ちを表す表現を文中から見つけたり、段落ごとに文の内容を整理する活動を行ったりすることで、文章の概要を捉える力をつけていくように改善していきます。

生徒質問紙（アンケート）の結果から 〈◎良い傾向　▲心配な傾向〉

〈学校に関すること〉

◎「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思う」の割合が高くなっています。

◎1、2年生のときに受けた授業で、PCやタブレットなどのICT機器を「ほぼ毎日利用した」の割合が高くなっています。

◎道徳の授業で、自分の考えを深める活動に積極的に取り組んでいる割合が高くなっています。

〈地域に関すること〉

◎「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う」の割合が高くなっています。

〈家庭や自分自身に関すること〉

◎「学校に行くのが楽しいと思う」の割合が高くなっています。

◎「自分にはよいところがある」、「普段の生活の中で幸せな気持ちになる」と答えた割合が高くなっています。

◎毎日、同じくらいの時刻に起きて、朝食を食べている割合が高くなっています。

◎「先生は自分のよいところを認めてくれている」と考えている割合が高くなっています。

◎将来の夢や目標を持っており、人の役に立つ人間になりたいと考える割合が高くなっています。

◎「新聞を毎日、または週に1～3回読んでいる」の割合が高くなっています。

▲学校の授業時間以外の、普段（月～金）、1日あたりの勉強時間に課題が見られます。

▲学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることに課題が見られます。

学校生活の中では、日常的にタブレットを活用することが定着しており、タブレットが学習活動に効果的に使用されていることもアンケート結果に表れています。教師も日々の授業におけるタブレット活用だけでなく、家庭での学習意欲の向上を目指した活用や課題の研究を推進していきたいと考えています。また、授業において考えを深めたり比較したりすることや、話し合い活動を行ったりする対話的な学習場面を増やしながら、主体的に学習に取り組むことができる生徒の育成に努めたいと考えています。さらに、情報モラル教育を充実させながら、ICT 機器の使い方やルール、マナーについても考える機会を大切にしていきます。ご家庭におかれましても、スマートフォンの使用はもとより、食事や睡眠の健康管理、家庭学習時間の確保など、引き続きご協力くださいますよう、よろしくお願いいたします。